

令和3年10月12日
奄美海上保安部



海底火山の噴出物が漂着 ～遥か1300kmの彼方から～

10月11日、航行船舶から、軽石などの大量の漂流物が奄美群島の喜界島の南方海域に接近していると通報がありました。

これら漂流物が船舶の機関の冷却系統に支障を及ぼす可能性から、航行船舶の安全のため、鹿児島県大島支庁、奄美群島内の12自治体、漁業協同組合、フェリーや代理店などに注意喚起の連絡を行いました。

更に、「海の安全情報」で広く情報提供するとともに、海域に接近しているAIS搭載船にAISメッセージで直接注意喚起を行うことになりました。

やがて、漂流物の一部は喜界島や奄美大島の東側の海岸や港などに漂着、テレビニュースでも大きく放送されました。

これらの漂流漂着物は、小笠原諸島の海底火山「福德岡ノ場」の噴出物の可能性が指摘されています。遥か1300kmを海流に乗って来た可能性があります。

外洋離島の奄美群島では、船舶による食料や燃料など生活必需品の安定供給が不可欠です。奄美海上保安部は、地域住民の安全安心のために、船舶交通の安全確保に努めます。



带状に漂着した軽石等（10月12日 大島郡龍郷町 戸口港）



福德岡ノ場の新島 (2021. 10. 12、海上保安庁 hp から)



奄美群島と福德岡ノ場